

支援の医療チームが引き継ぎ 地域医療の砦を守る

産経新聞 2011/05/03 01:55

YouTube tB CLIP トwitterにバツクする

ブログの声  この記事について、イザ！でブログを書こう！

👍 0

5

f いいね!

🐦 ツイートする



震災で大きな被害を受けた宮城県気仙沼市の本吉地区にある唯一の医療機関、同市立本吉病院に、新たに「全国国民健康保険診療施設協議会」(国診協)の医師らが入り、2日から通常診療を始めた。震災前からいた常勤医2人は震災で病院を去り、「無医地区」になるのを避けるため、NPO法人「徳洲会医療救援隊」(TMAT)の医師が約1カ月間守ってきた“地域医療の砦(とりで)”を引き継いだ。根本的な問題解決の方向は見えないが、震災で疲弊した住民らの安心を、支援の手が守り続ける。(中井美樹)

- ➔ [【東日本大震災】地域医療存続の危機 …](#)
- ➔ [ニーズ変わる医療支援 避難所長く不眠…](#)

この日から診察を始めたのは北海道の黒松内町国保病院から派遣された秀(しゅう)毛(け)寛己医師(54)ら。診察が始まる午前9時には、待合室は30人以上の患者で埋まり、診察を受けることに「震災の後、血圧が高くなった」「下痢が止まらない」などと訴えた。

本吉病院は、平成21年に本吉町と気仙沼市が合併する前から「本吉町国民健康保険病院」として、約1万千人が住む町で唯一の医療機関として機能していた。

震災では1階の天井近くまで浸水。診察室もレントゲン室も泥に埋まり、カルテも医療機器も流された。入院患者20人と職員は2階に避難し無事だったが、医療機能の“被害”は大きかった。入院患者をすべて内陸部に転院させ、関係者がひと息ついた翌日の3月20日、院長が辞表だけを残して姿を消した。もう1人の常勤医も体調面の不安を理由に病院を去ってしまい、同病院の医師は、「災害医療」のため同月14日から入っていたTMATの医師だけになった。

【東日本大震災】

支援の医療チームが引き継ぎ 地域医療の砦を守る 気仙沼市立本吉病院

2011.5.3 01:08 (2/2ページ)

震災直後、電気もガスも水道も止まった中、患者は次々と押し寄せた。鉄道も道路も寸断され、住民が頼れる病院はここしかなかった。「それでも患者さんは毎日やってくる。続けるしかない」と腹をくくった」と看護師長の佐々木美知子さん(44)は話す。

TMATのチームはもともと4月いっぱいまで撤収する予定で、県などが国診協に要請、5月末までの支援が決まった。TMATのメンバー、大坂友美子医師(32)＝湘南鎌倉総合病院＝も「この病院は看護師と患者の距離が近く、地域から必要とされているのは間違いない。とにかく踏ん張って存続してほしい」と話したが、県などによると、6月以降、常設の医療体制を構築するめどはたっていないという。

地域の住民たちも、病院の存続を求めて市に陳情書を出している。自治会長の内内康弘さん(52)は「震災後の町に暮らしていくためにも病院を失うわけにはいかない。県外からのお世話になってるだけにはいかない。住民自らが病院復興のために立ち上がりたい」と話していた。



🔍 クリックして拡大する

気仙沼市立本吉病院で引き継ぎを行うTMAT(中央)の医師と国診協の医師(左)＝宮城県気仙沼市